

**Express5800 シリーズ**  
**2.5inch SAS ソリッドステートドライブ (SSD)**  
**KIOXIA (旧東芝) 製対象 SSD 確認手順書**

**Rev. 3.1 【2022/ 2/08】**

**概要**

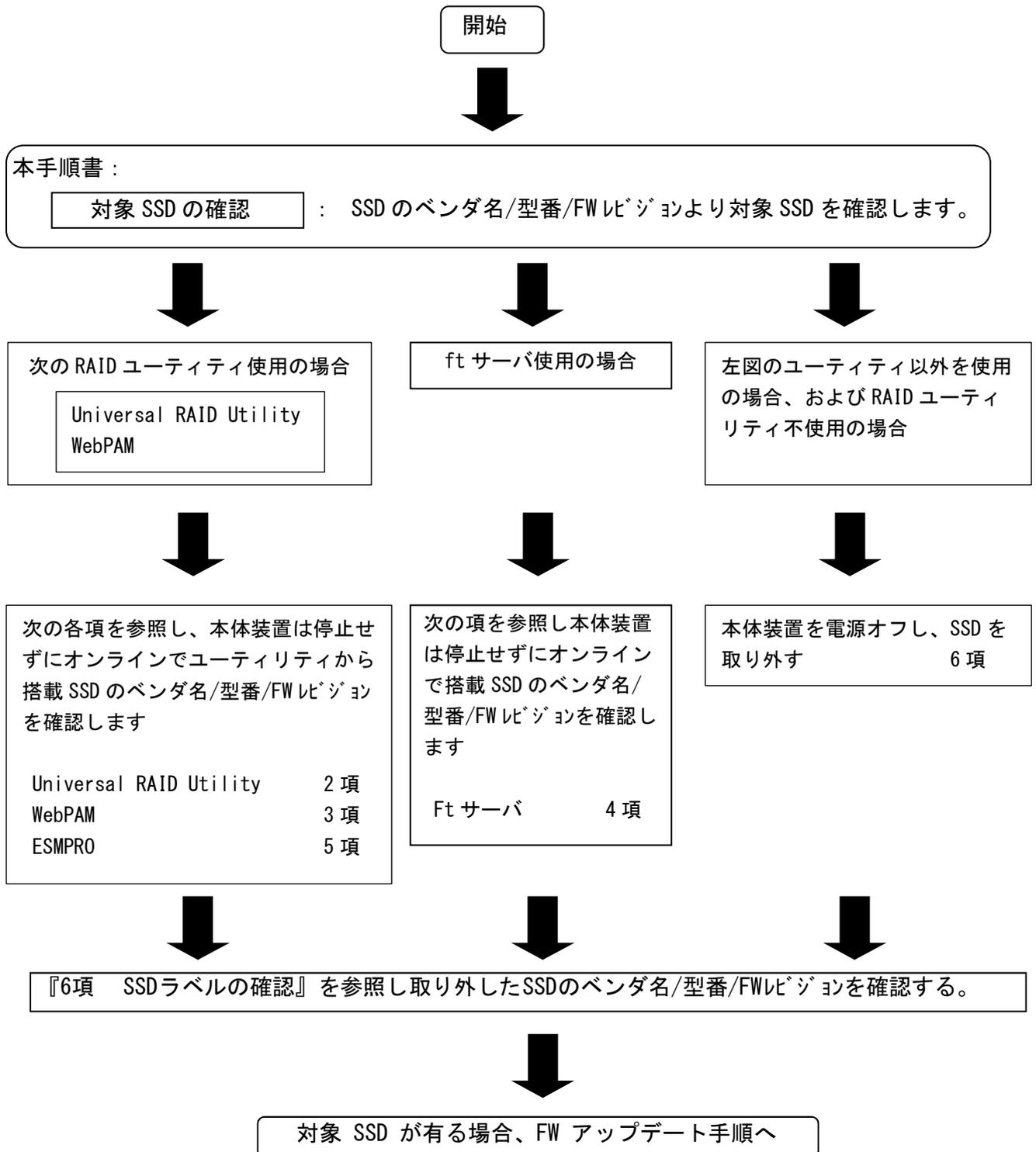
本手順書は、対象 SSD と FW Rev. を確認する手順を示すものです。

本書に記載されている手順に従い、対象 SSD と FW Rev. 確認を実施してください。

## 1. 対象 SSD 確認手順

対象 SSD は、SSD のベンダ名／型番／FW レビジョンから確認します。

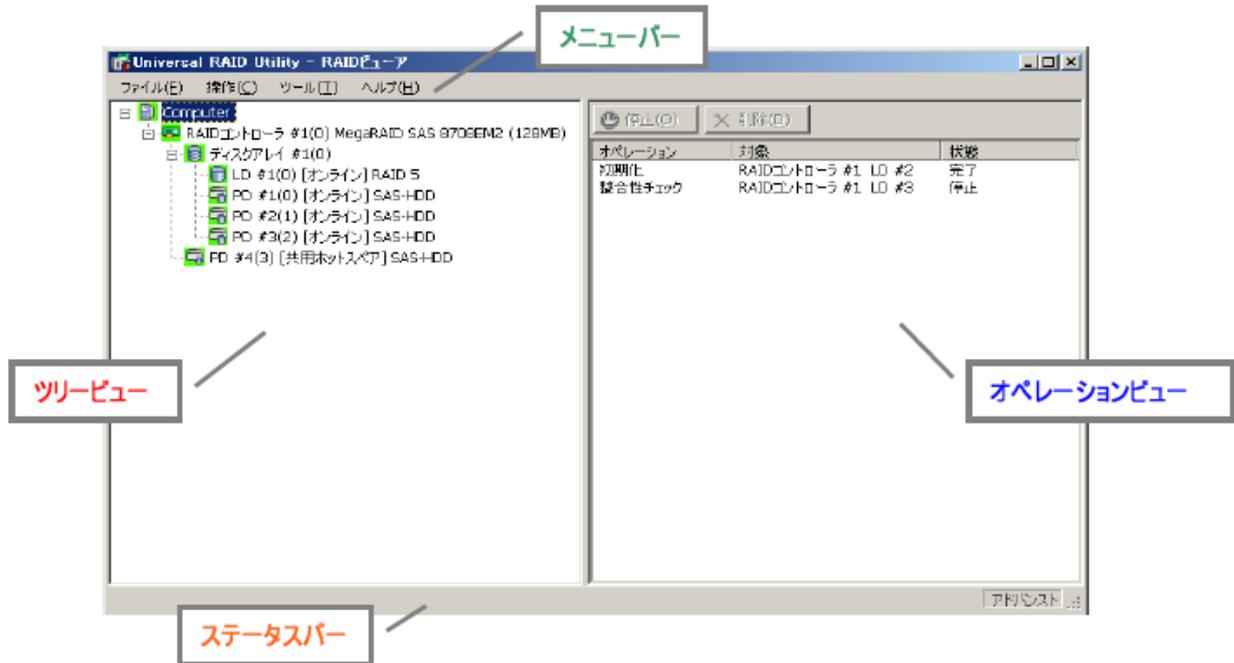
SSD のベンダ名／型番／FW レビジョンの確認方法は、インストールされている RAID ユーティリティにより異なりますので、システム構成を確認し、以下から該当するユーティリティのページを参照して作業を実施して下さい。



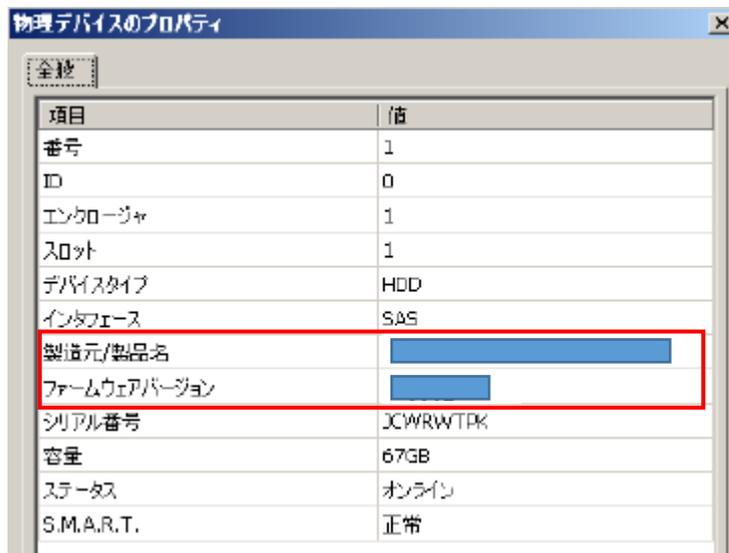
## 2. Universal RAID Utility による SSD 判別手順

### 2-1. Windows の場合

- ①RAID ビューワを開く
- ②ツリービューより接続されている物理デバイス (PD) クリックし、ファイルメニューでプロパティをクリックします。



- ③製造元/製品名/ファームウェアバージョンの値が下記対象品と合致するか確認します。



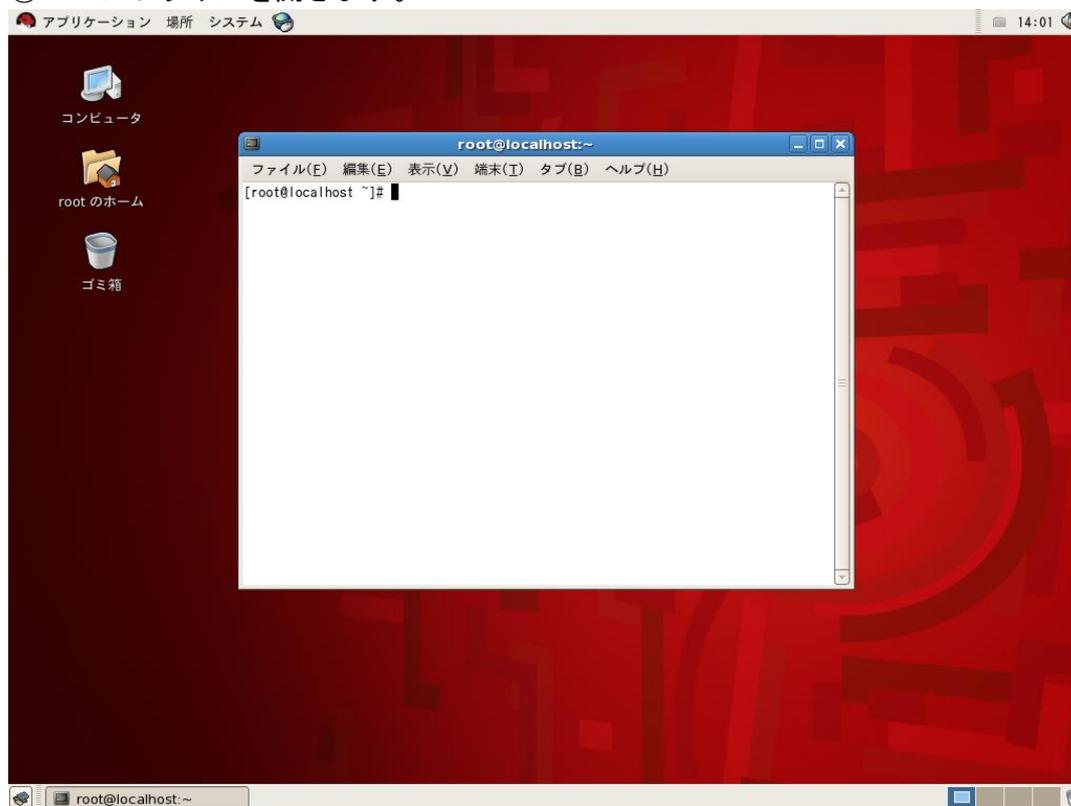
- 製造元/製品名 : (1) TOSHIBA PX02SMF020  
(2) TOSHIBA PX02SMF040

- ファームウェアバージョン : 3502

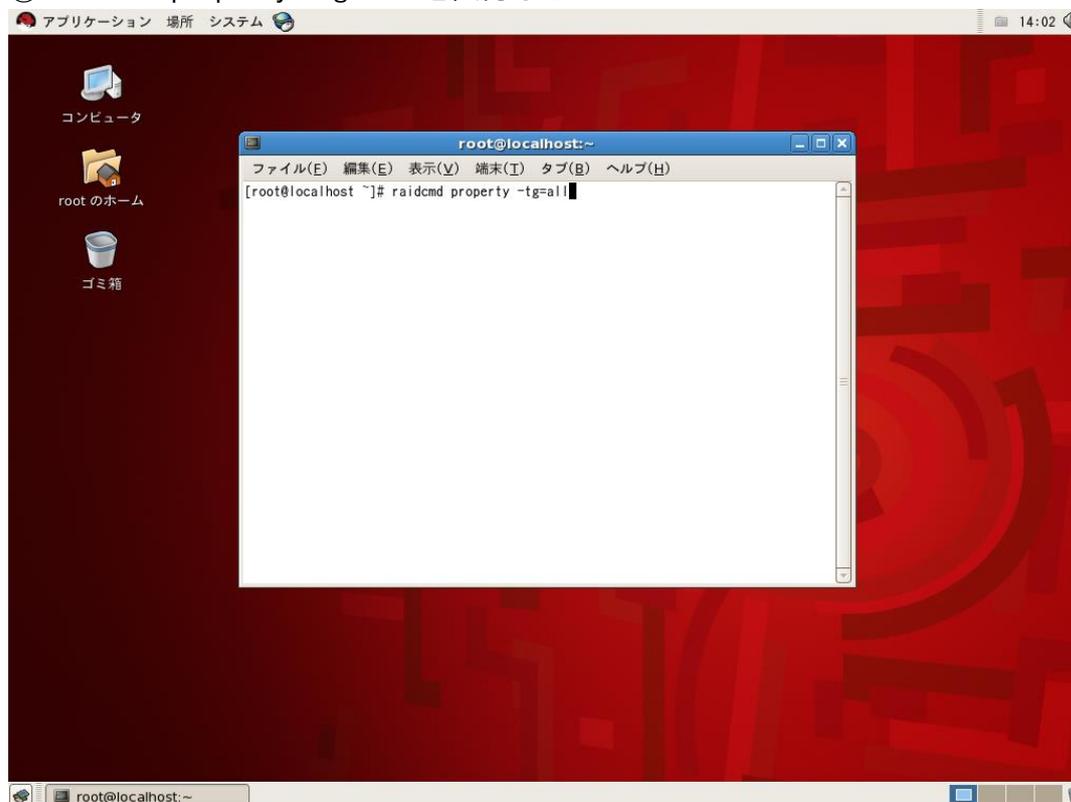
※上記 製造元/製品名、ファームウェアバージョン以外のものは、対象外です。

## 2-2. Linux の場合

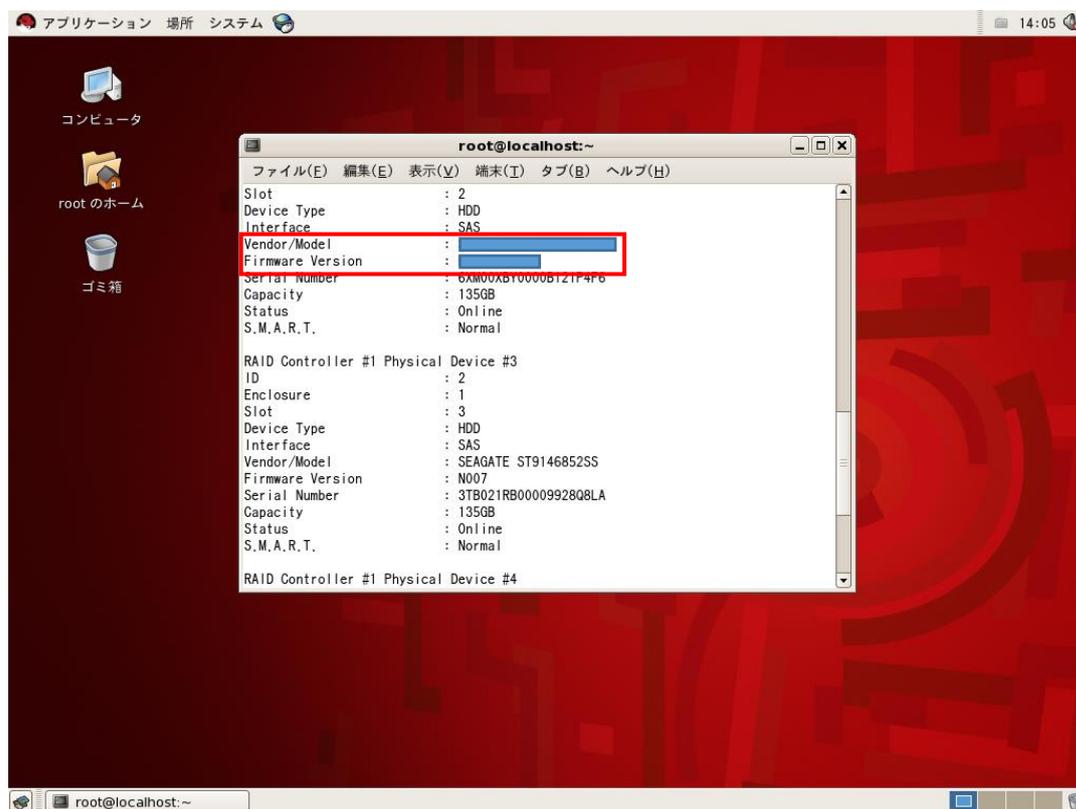
① コマンドラインを開きます。



② `raidcmd property -tg=all` と入力し Enter



- ③接続されている全ての SSD の詳細情報が出力されるため、Vendor/Model、Firmware Version の値を確認します。

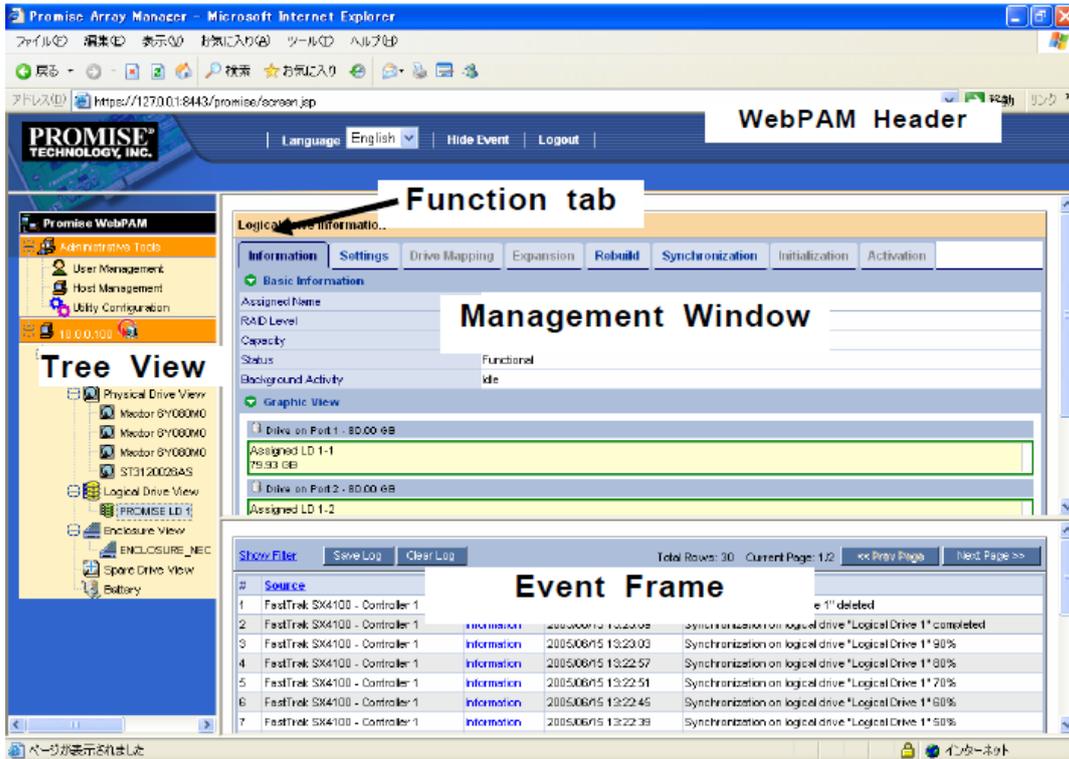


- Vendor/Model : (1) TOSHIBA PX02SMF020  
(2) TOSHIBA PX02SMF040
- Firmware Version : 3 5 0 2

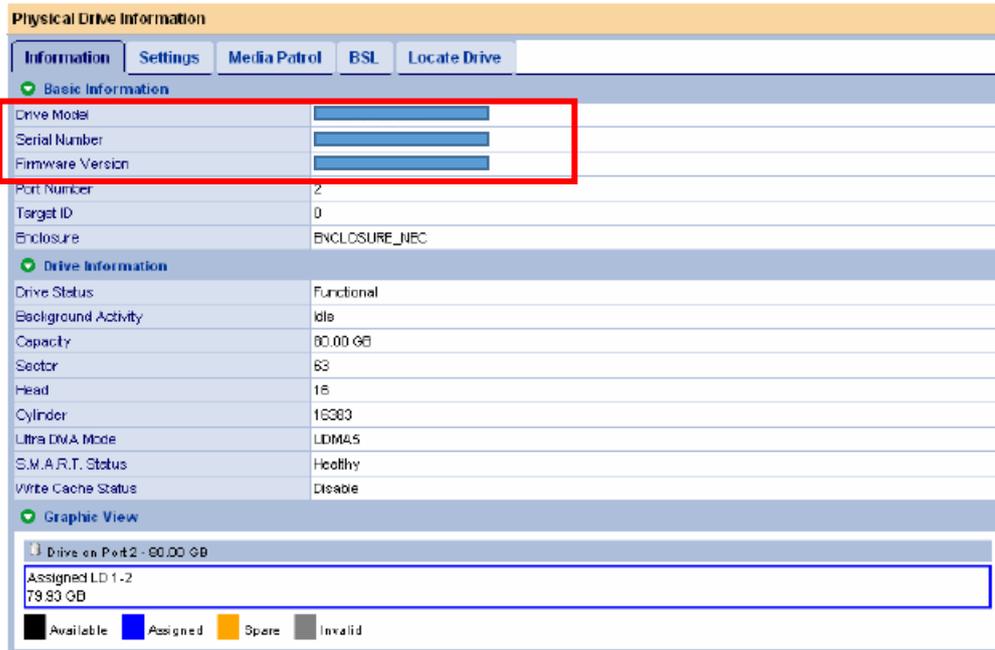
※上記 Vendor/Model、Firmware Version 以外のものは、対象外です。

3. WebPAMによるSSD判別手順 ※手順はWindows/Linux共通です。

- ①WebPAMを開きます。
- ②Tree Viewから目的のSSDをクリックします。



- ③以下のPhysical Drive InformationがManagement Windowに表示されるので、Drive Models、Firmware Versionを確認します。



- Drive Models : (1) TOSHIBA PX02SMF020  
(2) TOSHIBA PX02SMF040

- Firmware Version : 3 5 0 2

※上記 Drive Models、Firmware Version 以外のものは、対象外です。

#### 4. FT Server の SSD 判別手順

【注意】ft サーバでは、装置本体が二重化（装置前面の「システム FT ランプ」が緑点灯）している状態で確認を行ってください。

##### 4-1. Windows の場合

- ①RDR Utility を開きます。
- ②SSD の接続されている Slot にカーソルをあてるとウィンドウ右側に詳細情報が表示されます。

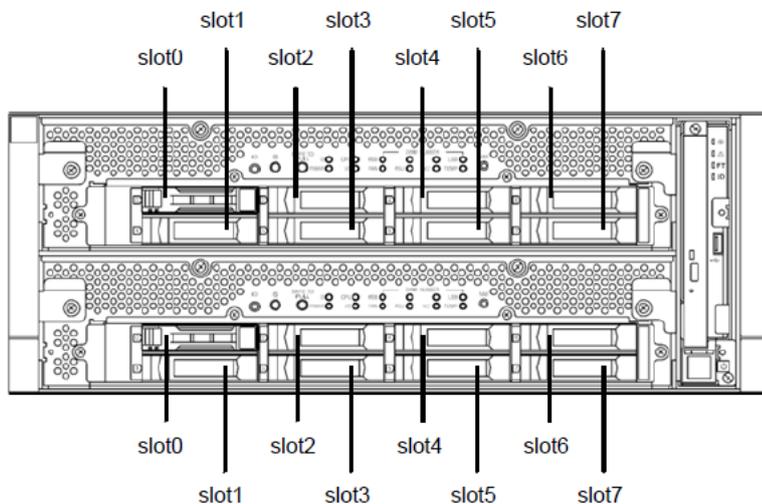


- ③「ベンダ名」「プロダクト ID」「プロダクトレビジョン」の欄から対象品かどうかを確認します。

- ベンダ名 : TOSHIBA
- プロダクト ID : PX02SMF020
- プロダクトレビジョン : 3502

※上記 ベンダ名、プロダクト ID、プロダクトレビジョン以外のものは、対象外です。

内蔵ディスクの実装位置と RDR Utility で表示される Slot との関係は以下の図を参照してください。



#### 4-2. VMware の場合

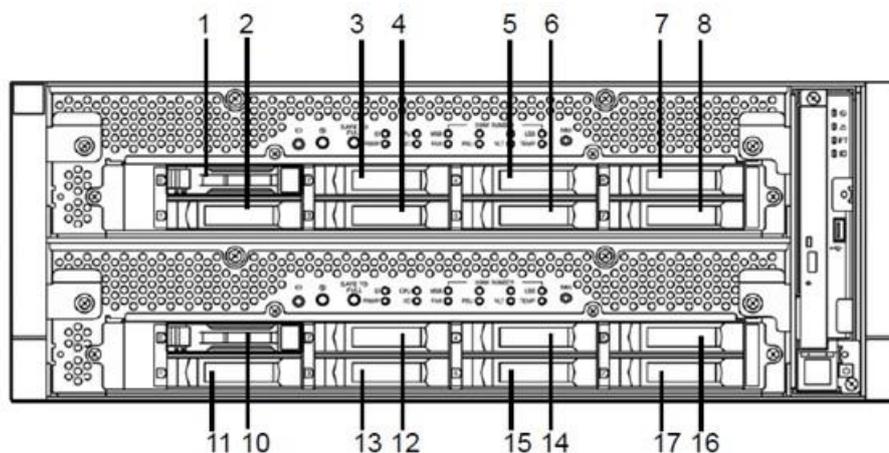
- ①ft 管理アプライアンスへログインします。
- ②対象 SSD のベンダ名、型番、FW レジジョンを確認するために、ft 管理アプライアンスのコンソール上で、以下のコマンドを実行します。

# /opt/ft/bin/ftsmaint ls <path>

上記の<path>には、装置に実装されているディスクのデバイスパスを指定します。

実装ディスクとデバイスパスの関係は以下になりますので、それぞれ、実装されているディスクのデバイスパス (10/40/\*) (11/40/\*) を確認して、コマンドを実行してください。

【ft サーバ上でのディスク搭載位置とデバイスパスとの関係】



上図の番号	デバイス	デバイスパス
0	--	--
1	内蔵ハードディスクドライブ 1	10/40/1
2	内蔵ハードディスクドライブ 2	10/40/2
3	内蔵ハードディスクドライブ 3	10/40/3
4	内蔵ハードディスクドライブ 4	10/40/4
5	内蔵ハードディスクドライブ 5	10/40/5
6	内蔵ハードディスクドライブ 6	10/40/6
7	内蔵ハードディスクドライブ 7	10/40/7
8	内蔵ハードディスクドライブ 8	10/40/8
9	--	--
10	内蔵ハードディスクドライブ 1	11/40/1
11	内蔵ハードディスクドライブ 2	11/40/2
12	内蔵ハードディスクドライブ 3	11/40/3
13	内蔵ハードディスクドライブ 4	11/40/4
14	内蔵ハードディスクドライブ 5	11/40/5
15	内蔵ハードディスクドライブ 6	11/40/6
16	内蔵ハードディスクドライブ 7	11/40/7
17	内蔵ハードディスクドライブ 8	11/40/8

コマンドを実行すると、デバイスパスで指定したディスクのステータスが表示されます。  
〈例：10/40/1 を指定した場合〉

```
# /opt/ft/bin/ftsmaint ls 10/40/1
H/W Path : 10/40/1
Description : Disk Drive
State : ONLINE
Op State : DUPLEX
Reason : NONE
Modelx : ****:*****
Firmware Rev : ****
Serial : *****
~<省略>~
```

③赤枠部に Modelx、Firmware Rev が表示されるので対象品か確認を行ないます。

■ Modelx : TOSHIBA PX02SMF020

■ Firmware Rev : 3 5 0 2

※上記 Modelx、Firmware Rev 以外のものは、対象外です。

#### 4-3. Linux の場合

- ① root ユーザでログインします。
- ② 以下のコマンドを実行します。

```
# ftdiskadm
```

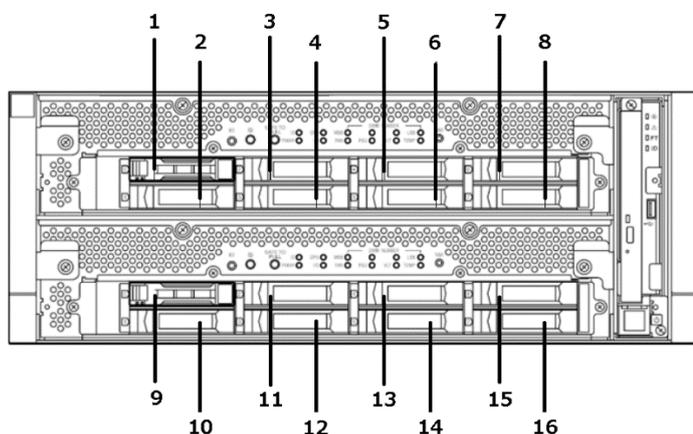
```
# ftdiskadm
Command action
 1 List RAID Arrays
 2 List Internal Disks
 3 Make Mirroring Arrays (RAID1)
 4 Repair Mirroring Arrays (RAID1)
 5 Delete Mirroring Arrays (RAID1)
 6 Remove Disk Partitions (RAID1)
 7 Make Striping Array (RAID1+0)
 8 Delete Striping Array (RAID1+0)
 c Configurations
 q Quit
Command:
```

- ③ 「2 List Internal Disks」を実行します。

- ④ 装置前面のハードディスクドライブスロットに実装されているディスクに対して、認識されているディスクの一覧が表示されます。

```
[List Internal Disks]
Slot Name [Use] Information (Vendor/Model/Serial) Path
-----
1 104001 (sdq) [0] xxxx/xxxxxxxx /xxxx h1c0t010
2 -
3 -
4 -
5 -
6 -
7 -
8 -
9 114001 (sdr) [0] xxxx/xxxxxxxx /xxxx h2c0t010
10 -
11 -
12 -
13 -
14 -
15 -
16 -
```

ftdiskadm コマンドで使用するディスクの Slot 番号と実際のディスクの搭載位置との関係は以下になります。



Information (Vendor/Model/Serial)にて、以下のFWアップデート対象SSDの型番があるか確認してください。

```
[List Internal Disks]
Slot Name [Use] Information (Vendor/Model/Serial) Path
-----
1 104001 (sdq) [0] xxxx/xxxxxxxx /xxxx h1c0t010
2 -
3 -
4 -
5 -
6 -
7 -
8 -
9 114001 (sdr) [0] xxxx/xxxxxxxx /xxxx h2c0t010
10 -
11 -
12 -
13 -
14 -
```

- Vendor : TOSHIBA
- Model : PX02SMF020

※上記 Vendor、Model 以外のものは、対象外です。

## 5. ESMPRO による SSD 判別手順

### 5-1. ESMPRO/ServerManager の場合

#### ①物理デバイスのプロパティを参照

物理デバイスの情報は、物理デバイスのプロパティで参照します。

物理デバイスのプロパティを参照するには、ローカルナビゲーションで参照したい物理デバイスをクリックします。

物理デバイスのプロパティには、〔全般〕があります。〔全般〕プロパティは、物理デバイスのプロパティを表示します。

プロパティの参照	
項目	値
<b>全般</b>	
エンクロージャ	63
エンクロージャ接続位置	ポートB 1番目
スロット	0
ID	64
デバイスタイプ	SSD
インタフェース	SAS
製造元/製品名	
ファームウェアバージョン	
シリアル番号	3010A00L15YA
セクターフォーマット	512
容量	185GB
ステータス	✔ オンライン
S.M.A.R.T.	✔ 正常
寿命残量	✔ 安全(100-51%)
電源状態	電源オン

② 赤枠部に製造元/製品名、ファームウェアバージョンが表示されるので対象品か確認を行ないます。

■ 製造元/製品名 : (1) TOSHIBA PX02SMF020  
(2) TOSHIBA PX02SMF040

■ ファームウェアバージョン : 3502

※上記 製造元/製品名、ファームウェアバージョン 以外のものは、対象外です。

## 6. SSD ラベルの確認

SSD を取り外したら、ラベルに印字されているラベルー 1 にて対象であることを確認します。  
下図の赤枠内がラベルー 1 の位置です。

- ・ KOXIA (旧東芝) 製 SSD



< ラベルー 1 確認内容 >

- 型番 : (1) WSD 1 1 2 - 1 2 0  
(2) WSD 1 1 2 - 1 2 9  
(3) WSD 1 1 2 - 1 3 0
- CONFIG CODE : 0 1 A

※上記 ラベルー 1 の型番、CONFIG CODE 以外のものは、対象外です。

---

以上で対象 SSD の確認手順の説明は終了です。